

「高度医療・人材育成拠点」の整備に向けた取組状況について

1 要旨・目的

全国トップレベルの高度医療の提供や医療人材の育成等の機能を持つ「高度医療・人材育成拠点」（新病院）の整備に向け、令和5年9月に策定した「高度医療・人材育成拠点基本計画」に基づく新病院の医療機能や施設整備等に関する取組状況等について報告する。

2 現状・背景

- (1) 高齢化に伴って、医療ニーズが高まる一方で、労働力人口が減少し、医療を支える人的資源が縮小するとともに、多数の症例や研修体制が充実している大都市圏の病院に若手医師や研修医の集中が加速することで、県内の医師不足が顕在化することが見込まれる。
- (2) 中山間地域においては、地方の基幹病院の医師不足により、サービス供給停止・縮小を余儀なくされ、都市部に比べてより速く、医療基盤の維持が困難になることが予想される。

【新病院開院までの流れ】 ※ スケジュールは現時点の想定

拠点ビジョン → 基本構想 → 基本計画 → 基本設計 → 実施設計 → 建設工事 → 開院
2022年3月 2022年11月 2023年9月 2024～2026年 2026～2030年 2030年

3 概要

(1) 対象者

県民、医療関係者等

(2) 実施内容（取組状況）

ア 県民公開セミナー

高度医療・人材育成拠点基本計画について、県民の理解促進及び機運醸成を図るため、医療再編や新病院に関連するテーマに基づき、大学講師等の講演やパネルディスカッションによるセミナーを開催した。

【日時】令和6年11月17日（日）13時～16時開催

【会場】広島県医師会館ホール（広島市東区二葉の里3丁目2番3号）

【主催】広島県／【共催】一般社団法人広島県医師会、株式会社中国新聞社

【内容】※ Web 視聴可（YouTube 配信）

テーマ	これからの地域医療と新病院
県の取組説明	渡部 滋 （広島県健康福祉局 医療機能強化担当部長）
基調講演	松村 誠 （一般社団法人広島県医師会 会長）
講演	岡本 健志 （県立広島病院 総合診療科・感染症科 部長） 伊藤 公訓 （広島大学病院 総合内科・総合診療科 教授） 中西 敏夫 （地域医療連携推進法人 備北メディカルネットワーク 代表理事） 藤井 温 （因島医師会病院 病院長） 松本 正俊 （広島大学医学部地域医療システム学 教授）
パネルディスカッション	総合司会：栗井 和夫 （広島大学病院 放射線診断科 教授） 田中 美千子 （中国新聞編集委員室） パネリスト：各講演者
参加人数	246 名（会場 133 名・Web113 名）

【パネルディスカッションでの質問と回答】

質問	回答
広島県の中山間地域や島しょ部では、医師不足が指摘されており、こうした地域の医療をより良くするために、新病院はどのような役割を果たせるのか	・新病院で総合診療医を育成し、減少している中山間地域の医療機関と連携していくことが考えられる。 ・新病院には中山間地域の医療機関との連携・支援体制のネットワーク構築を期待している。 ・若手医師が新病院で勤務したいと思うような魅力ある環境や施設を整備し、医師不足の解消を期待したい。

<セミナーホームページ>

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/koudoiryou-jinzai/koudoiryou-jinzaiikuseikyoten-seminar2024-nov.html>

（※県民公開セミナーにおける講演や新病院に関する県からの説明動画、県民からの質疑応答などを掲載）



イ 地方独立行政法人広島県立病院機構評価委員会

地方独立行政法人法及び地方独立行政法人広島県立病院機構評価委員会条例の規定により、地方独立行政法人広島県立病院機構評価委員会（以下「評価委員会」という。）の意見を聴くことが求められているため、中期目標（案）・中期計画（素案・一部骨子案）について、評価委員会から意見を聴取した。

【日時】第3回会議（令和6年11月20日（水）開催）

【構成員】 枝広 直幹 （福山市長）、
大石 佳能子 （株式会社メディヴァ代表取締役社長）、
木倉 敬之 （全国健康保険協会理事）、
平谷 優子 （ひかり総合法律事務所弁護士）、
松田 淳 （KPMG ヘルスケアジャパン株式会社代表取締役）、
◎松村 誠 （広島県医師会会長）
山本 恭子 （広島県看護協会会長）
※◎は評価委員会委員長

【議題】・中期目標（案）・中期計画（素案・一部骨子案）について

【主な意見】

区分	内容
使命・役割	・中山間地域だけでなく、県の東部地域においても医療人材が不足しており、将来の医療提供体制に危機感を感じている。<u>法人が、県東部においても、安全・安心な医療体制を提供するための拠点となるものであることを期待したい。</u>
地域完結型医療	・この5年間は、拠点整備の準備期間であり、法人にとって重要な期間となる。<u>広島市内の病院の役割分担を明確にし、機能の集約を進めるとともに、連携が必要なものは協力を求めながら、拠点整備を進めてほしい。</u>
人材確保・育成	・県内の小児科の実習場所が少なく、非常に困っている。<u>今後舟入市民病院の小児科機能が統合すると、さらに実習場所が減少するため、実習生の受け入れにあたっては、県全体の人材育成の視点を持って検討してほしい。</u> ・新病院ができたからといって、すぐに人材を地域に派遣するのは難しい。<u>職員がゆとりを持ってそういうスキルを身に付けられるよう、計画的、段階的に準備を進めるべきである。</u>
運営	・具体的な <u>KPI</u> は今後示すという説明であったと思うが、その<u>水準が妥当かどうかの精査が必要である</u>。収支計画や財務に関する KPI をおくとして、その前提となる診療報酬の水準や人件費の増減の見込みは適切なのか。<u>現場の運営状況や設備費の高騰などの外部環境も含めて実現可能かどうか。また、現在の病院事業との連続性が保たれているかといった点からの議論も必要である。</u> ・<u>少子高齢化や人口の偏在が加速していくと、政策医療など公的な役割がさらに重要となる。収支の適正化は必要ではあるが、医療には公的支援がなければ成り立たない部分も多い。</u>法人が求められる使命を果たすためには、<u>病院の努力で収入を確保しつつ、適切な公的支援も受けながら費用の適正化を図る。この両方をバランスよく検討してほしい。</u> ・<u>病院事業局の外部評価委員会には長い歴史があり、病院経営における様々な知見の集積がある。現在の病院事業の経営計画、指標はそうした議論を踏まえて設定されているものなので、その点も踏まえて議論してほしい。</u>

【意見書】これまでの審議を踏まえ、提示された中期目標（案）は適当である旨の意見書を評価委員会としてとりまとめ、広島県知事へ提出

ウ 新病院開設準備委員会

新病院の開院に向けて、高度医療・人材育成拠点基本計画を具体化するため、地方独立行政法人の中期目標（案）・中期計画（素案・一部骨子案）の審議と承認、統合・再編対象病院との調整状況の報告を行った。

【日時】第4回委員会（令和6年11月29日（金）開催）

【構成員】県立広島病院、JR 広島病院、中電病院、広島がん高精度放射線治療センター、広島大学病院、府中市、安芸太田町、広島市、広島県

【主な議題】・地方独立行政法人の中期目標(案)・中期計画(素案・一部骨子案)等について
・統合・再編対象病院との調整状況について

【主な意見】

区分	内容
中期目標（案）・中期計画（素案・一部骨子案）等	・この法人が果たすべき役割としている人材育成や県内の医療提供体制を支える機能について、医育機関である大学との役割分担や連携の強化が重要である。 ・病院経営はどこも厳しい状況であり、安定的な経営基盤の構築に向けては、県からの支援も含めた対応策について具体的な検討を進めてほしい。 ・借入金の償還は、病院経営に大きなインパクトを与えるので、金利等の前提条件の変化を注視した上で、シミュレーションの精緻化を進めてほしい。
統合・再編対象病院との調整状況	・統合・再編対象病院から医療機能を確実に移管するには、各職種間の連携を引き継ぐことも重要であるため、具体的な検討を進めてほしい。

(3) 予算額（一部国庫）

令和6年度当初予算額 1,218,107 千円（債務負担行為額 19,919,000 千円）
補正予算額 （債務負担行為額 5,747,500 千円）

(4) その他（広島県HP掲載）

ア 高度医療・人材育成拠点の整備について

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/276/koudoiryou-jinzaiikuseikyoten.html>

（※高度医療・人材育成拠点基本計画や基本構想、各種会議資料などを掲載）

